

MeReal!

YY

Yamagata Young

meeting

報告書

♡ 💬 📍 この冊子を手にとって下さった方へ

山形県では、進学や就職を機とした、若者の県外流出が課題となっています。

そこで若者の県内定着・回帰を進めるため、県内外の山形にゆかりのある若者たちが、会場に集まる対面式とオンラインで参加する「MeReal! YY meeting」を開催し、6つのトークテーマについてSNSに投稿されている事例をもとに、若者がこれからも山形で暮らしていくために未来の山形にどうあってほしいかを話し合いました。

この報告書では、トークテーマごとのグループセッションで出された若者のリアルな意見をまとめています。

若者が活躍でき、住み続けられる「山形」を考えるきっかけとなれば幸いです。

山形県しあわせ子育て応援部 多様性・女性若者活躍課

令和6年度 若者のオンライン対話事業



MeReal!

YY

Yamagata Young

meeting

イベントレポート ダイジェスト

開催当日の様子をコーディネーターの熊谷春香さんがレポートしてくれました。

2024年9月8日 Sun. 16:00-18:20

コーディネーター



▶開催の目的

若者が「こんな山形になっただり暮らしたい!!」と思える未来はどうすれば創れるのか?山形の魅力・課題をもとに、SNSを活用し、山形がさらに良くなるアイデアをさまざまなジャンルの若者のみなさんに考えてもらうものです!!



熊谷春香

参加者の属性



参加者数は
34名
でした!!

社会人: 15名

大学生: 17名

高校生: 2名

参加動機

さまざまなジャンルの同世代の人たちの意見を聞いてみたいと思ったから!



良いところがたくさんあるのに、活かしていないものがたくさんあることを意見したかったから!



YYmeetingのSNS広告で見た「こんな山形になっただりいいのになあ」という思いが同じだったから!



自分の成功体験を踏まえて、山形県の職員の方にもっとこうしてほしいということをお願いしたかったから!



プログラム

●全体セッション

1. コーディネーターの自己紹介
2. 前年度の報告書ダイジェスト
3. 流れの説明

●グループセッション

1. 自己紹介
2. テーマに沿ったアイデア出し
3. チームアイデアの選出
4. 発表用紙を記入

●全体セッション

1. 各チームのテーマに沿ったアイデアの発表
2. 参加者からの感想
3. コーディネーターからの意見



司会は元YTSアンサーの
石井又美子さんに
務めていただきました!



各チームの「未来の山形」トピックテーマ

- こんな働き方ができたら暮らしたい!
- こんな県の取り組みがあつたら暮らしたい!
- こんな情報を知ることができたら暮らしたい!
- こんな居場所があつたら暮らしたい!
- こんなチャレンジができたら暮らしたい!
- 教えて! みんなのライフデザイン

▲グループセッションの
進行役は、
「若者サポーター」
「やまがた学生情報局」
の方々に務めていた
だきました!!

参加者からの意見



若者が山形で
やりたいことや仕事を
もっと見つけられる
コンテンツがほしい!



土城や大羽羽食舎など
の居場所をイベント
スペースとして開放
してみるのはいかがでしょうか?



霞城セントラルを
若者向けに改革
したらどうか?

感想

＼詳しくは3～10ページ!／

SNS上にある成功事例などを基に、それぞれのチームが本業や
角度から具体的なアイデアを出しており、ワクワクしました!このYYmeeting
のアイデアが反映されたら山形の未来はより楽しくなると思いました。

Coordinator 熊谷 春香 さん

Kumagai Haruka

1995年1月生まれ、山形県山形市出身。

幼稚園から大学まで山形の学校へ通う生粋の山形人。

コロナ禍をきっかけに山形の魅力発信に力を入れ、本業のデザイナー・クリエイター
目線でのSNSを活用した活動をInstagram、YouTubeを中心に行っている。令和3
年4月～令和4年12月には白鷹町地域おこし協力隊としても活躍。冬は蔵王温泉ス
キー場スポーツ大使として冬の山形の魅力発信に力を入れている。

Me
Real!





トークテーマ アイデアレポート

6つのトークテーマについて話し合いが行われたグループセッション。それぞれのグループのトークテーマの具体例としてSNSの投稿を参考に、「暮らしたい未来の山形」について意見を出し合い、話し合いを行いました。トークテーマによってはなかなかピッタリなSNS投稿が見つからず苦戦するグループもありましたが、第3部の合同セッションでは、発表予定時間を大幅にオーバーするグループもあるくらい、各グループから多くの熱いアイデアが発表されました。また、オンラインより対面での参加者が多く、直接会って話し合いをすることで、より活発な議論と若者同士のつながりが生まれました。

トークテーマ 1. こんな働き方ができたら暮らしたい！未来の山形

1-Aグループは、どうしたら山形県内で自分たちが希望する働き方ができるかについて、1-Bグループは具体的にこんな働き方ができたらいいなという例をあげて、そこからの発展や実現に向けての行政のサポート体制についてアイデアを発表しました。

1-A 山形県でのやりたい仕事、働き方のために

参考 SNS *HAPPY LIFE薬剤師 *米利休 *ゆくゆく山形 by ヤマガタ未来ラボ

- 「なぜ若者が県外に行ってしまうのか」を考えたときに、「自分に合った仕事が無いからでは？」という意見が出た。それは情報不足が一因にもなっていると思われるので、対策として様々な働き方や企業の社風を紹介するコンテンツをつくるなど、企業の柔軟さと風通しを良くして情報発信することで、各自に合った山形県での働き方を見つけられることが必要だと思う。
- また、若者と起業家、OBなどの接点をつくるため、若者が山形でやりたいことをプレゼンする場やコンテンツをつくることも必要ではないか。



若者が自分に合った仕事が無いと思い
県外に流出している？

実際はあるかもしれないのに
情報提供不足／チャンス不足

企業の柔軟さ・風通しの良さが必要
*様々な働き方を紹介するコンテンツ
*企業の社風などを紹介するコンテンツ
*成功起業家の実例をまとめたコンテンツ

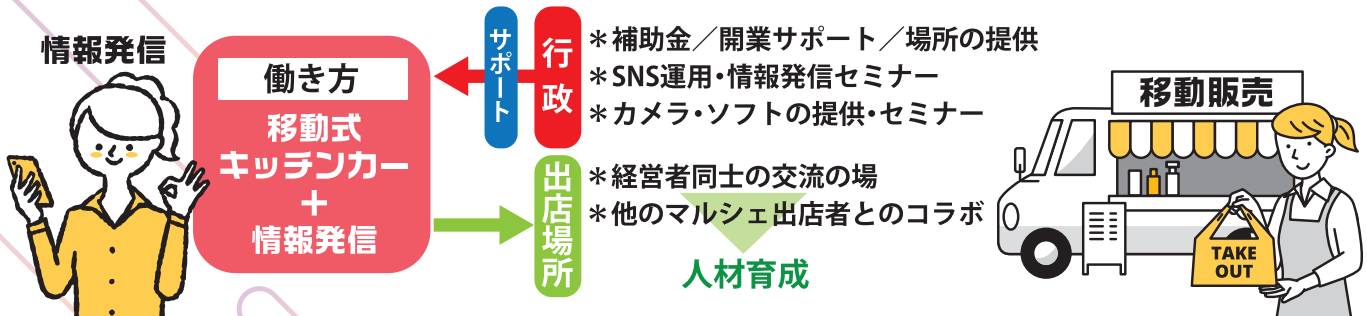
**若者の山形でやりたいことを
プレゼンする場やコンテンツ**



1-B 移動式キッチンカー+情報発信という働き方

参考 SNS *Calme Coffee カフェ暮らしVlog

- 初期費用のかかる固定式でなく、キッチンカーで移動販売を行い、機動力の利点を活かして、移動場所でブログなどの情報発信を行う、移動販売と情報発信という働き方が山形でできたらいいなと思う。実現のためには、行政からの補助金などの財政的な支援、性能の良いカメラやソフトの支給、開業や場所のサポート、情報発信のセミナーなどがあるといい。
- 出店場所が経営者同士のコミュニティや交流の場になったり、マルシェの出店者とコラボができれば、人材育成の場にもなる可能性があると思う。



トークテーマ 2. こんな県の取組みがあったら暮らしたい！未来の山形

2-Aグループは、イベントから情報発信、宿泊者の受入まで多方面にわたる取組みアイデアについて、2-Bグループは市単位で行っていた取組みをさらに大きく県単位でやるとしたらというアイデアを発表しました。

2-A 山形県がイベントのために場所と情報を提供

参考 SNS *青森のSHIRO FES

- 城や文翔館などの建物、施設を開放し、貸出できるものをリスト化して、貸出方法、使用料金を明示するとともに積極的に情報提供を行えば、イベント主催者が交渉する手間が省けると思う。
- また、使用者の自由度を担保するとともに、イベント実施時の近隣住民への説明等には県も一緒に対応する体制があればいい。

城、文翔館など建物・施設の開放

使用料金等の積極的な情報提供

使用者の自由度の担保

近隣住民への説明等への対応



※1:エアビースクール/空き部屋や空き家を宿泊施設として提供するマッチングサービスのAirbnb(エアビーアンドビー)のノウハウを学ぶスクール。

エアビースクール^{※1}を活用して民泊運営事業を立ち上げる

参考 SNS *エアビースクールの活用

- インバウンド旅行者も多く利用しているAirbnbについての講座を実施することにより、使用していない部屋や物件をアクティブ化して、民泊の開業支援を進めていけばいいと思う。空き家の活用にもつながるし、使用頻度の低い公共施設の利用法としても活用できると思う。

Airbnb講座の実施

民泊/空き家の活用

イラストコンテストの実施とイラストの有料素材化

参考 SNS *ヤマガタシティグラフィック

- イラストコンテストの実施などコンテストの部門を広げて、クリエイティブな発信の場を提供してほしい。コンテストでのイラストなどは行政が購入、有料素材化してインフルエンサーが稼げる仕組みをつくるとともに、自治体の公式スタンプ化するなど情報発信にも活用してはどうか。
- プロのインフルエンサーを県がプロデュースし、インフルエンサーが職業として活躍できる環境を整備すると思う。

イラストコンテスト等の開催

*クリエイティブな情報発信の場
*イラストの有料素材化、公式スタンプ化

*インフルエンサーが稼げる仕組みづくり
*県によるインフルエンサーのプロデュース

山形版リアリティーショー

*起業からアイドル育成までジャンル不問
*視聴者が実際にショーの進行に参加できる

山形県の活性化の起爆剤

リアリティーショー^{※2}で山形を活性化

参考 SNS *リアリティーショー

- ドキュメンタリー専門チャンネルの山形版をつくるイメージで、リアリティーショーを各テレビ局に制作してもらうのはどうか。カテゴリーは起業からアイドル育成、受験、就活、ライフスタイルなどジャンルにとらわれず、山形県の視聴者が実際に参加できる身近さで演出を行うことで山形の活性化につながると思う。
- 見せ方としてはショート動画でのドラマ化が若者視聴につながりやすいと思う。

※2:リアリティーショー/事前の台本なしに、出演者が直面していく現実の出来事をドキュメンタリーやドラマ仕立てて編集されたテレビ番組のジャンル。

2-B こどもの夢を叶えるためのプロジェクト

参考 SNS *こどものまちプロジェクト @長井市

- 長井市で子どもたちが企画して社会の仕組みを学べる「こどものまちプロジェクト」が実施されているが、これを県全体で実施するにはどうしたらいいかを考えた。
- 「こどものまちプロジェクト」は子どもが考え、子どもがつくる、こどものためのまちで、仕事をした給料で買い物をしたり、レジャーを楽しんだりしながら社会の仕組みを学べるイベント。こどもの主体性を大切に、子どもから出てくる意見をもとにまちをつかっており、奇想天外なアイデアや、参加した子どもが後々事業を立ち上げた例もある。NPO法人や県、地域団体が協力して、こどものやりたいことを優先して実現してあげることが、こどもの夢を叶えることになるし、地域全体もつながると思う。



こどものまちプロジェクト/メインテーマ
こどもの夢を叶える

ゴール

子どもたちが考える未来を実現するため
地域の人々が協力する

山形県各地で開催/こどものまちプロジェクト

こどもの企画を大人がサポートして実施
運営/山形県、NPO法人、地域のつながりの強い団体協力/地域の飲食店、小売店→地域全体のつながり
会場/県内各地のみんなが集まる場所 *空き家の活用
*公共施設

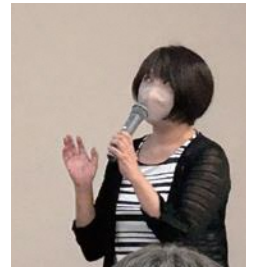


トークテーマ 3. こんな情報を知ることができたら暮らしたい！未来の山形

3-Aグループは、県内・県外在住者を対象にした場合の情報発信について考え、3-Bグループは山形の大学に県外から学生を呼び込むための情報発信と県外への学生の流出を防ぐための情報の発信についてアイデアを発表しました。

3-A 県内と県外在住者向けの2種類の情報発信 参考 SNS *オキタマズカン (求人への参考になった)

- 県内在住者と県外在住者では求めている情報も違うと思われるので、情報発信は県内在住者向けと県外在住者向けの2種類があるといいと思う。
- 県外在住者向けの求人情報では、オフの日の情報も掲載してはどうか。若手社員がどんな過ごし方をしているかのロールモデルや遊べる施設があるかなどの情報は、現地をよく知らない県外在住者には重要な情報であると思う。
- 移住希望者に向けての情報発信は、情報内容のニーズにマッチさせるためにターゲットの年齢層を絞るといい。また、リタイア後も住み続けてもらうためのセカンドライフの情報も重要だと思う。
- 県外の人から山形を訪れる際に参考ができるお店の情報なども掲載すると来県の動機にもなり得るのではないかな。
- 情報発信の方法としては、若い世代はInstagramを1番見るので、Instagramの使用がいいと思われる。特にリール動画をよく見るので、リール動画でバズるようになるいいと思う。



県内の人 *新しい情報
*あまり周知されていない情報

発信先【県内の人／県外の人】2種類の情報

県外の人 **求人** *山形県在住者のオフの日の過ごし方／ロールモデル
*若手社員などの話 *遊べる施設情報

移住 *年齢層を絞りニーズにマッチした情報提供
*住みやすい市町村の紹介／移住助成などの情報
*セカンドライフの情報／家族とともにずっと住んでもらう

山形県の
情報発信

情報発信の方法

*若者の接触傾向の高いInstagramでの発信
*駅や大学などにQRコード付きポスター掲出 *視聴傾向の高いリール動画での情報発信



3-B 県内在住の高校生・大学生を山形から離さない 参考 SNS *いだちゃんねる *ゆくゆく山形 byヤマガタ未来ラボ

- 『いだちゃんねる』は、京都府外の高校生向けに京都大学の学生生活や京都暮らしについて発信していて、その影響か京都大学の受験者数が増加しているようだ。山形県内の大学でも学生生活を県外の高校生に向けて発信するYouTuber、インフルエンサーが出てくると、山形県内の大学への入学希望者が増えるのではないだろうか。
- 県内の学生は「山形にやりたい仕事が無い」と思っており、親や周りの人も「山形には何も無い」と思っている。そんな状況なので県内在住の生徒・学生向けの情報発信として、高校や大学で手軽に就活の情報を得られるように、キャリア授業を必修にしたいと思う。高校生のうちから県内の企業を知ったり、客観的に県外と比較できる機会と情報を提供して、山形が就職(自己実現)できる場所だと知らせることが必要ではないかな。
- 県内在住の高校生・大学生を山形から離さない、離れてしまっても山形に戻るきっかけづくりが重要で、山形から離れられない、戻ってくるための楽しい人間関係(友人、恋人、地域の人、アルバイト)をつくることも大切だと思う。



県内在住の
高校生・大学生
山形から
離さない

大学生 *山形の情報を手軽に入手できるようにする／企業、就職情報
*山形県内での楽しい人間関係をつくる→離れられない、戻ってくる

高校生 *県外からの入学生獲得のために山形県の大学の情報発信
*山形県の探究授業やキャリアの授業を取り入れる
*山形の企業を知ったり、客観的に他県と比較できる機会を与える
*山形が戻ってこられる、就職(自己実現)できる場所だと知ってもらう



山形にも自己実現できる場所があると知ってもらう

トークテーマ 4. こんな居場所があったら暮らしたい！未来の山形

4-Aグループは、世界の人との交流、県内4地域の交流、子育て、ユニークな居場所としての山形の発信について、4-Bグループは霞城セントラルを大改革して、幅広い世代の生活利便性を上げる居場所にするためのアイデアを発表しました。

4-A いろいろな交流の場、子育てを支援する場、ユニークな居場所

- 山形県内では、世界を向いている人が少ないと感じる。インバウンドで外国人も多く山形へ訪れるようになってきているので、世界の人と触れ合える空間や場が作れるといいと思う。
- 県内4地域は、近いようで現状では交流があまりない。もっと4地域間で交流があると周遊観光などの相乗効果も見込めるのではないだろうか。
- 若い世代の子育て支援を行い、子育て中の親が就職活動をしやすくする。子育て中の親が一人ではないことを発信する場と居場所をつくり、子育ての「No more ワンオペ」を実現できたらいいと思う。
- 居場所として「ゲーム」など広いジャンルを設定するよりも、1種類のゲーム、例えば「スマブラ」^{※3}に特化するくらい尖った発想で山形を発信すれば、ユニークさから注目度がアップすると思う。

※3:スマブラ/「大乱闘スマッシュブラザーズ」の略称。任天堂が発売した対戦アクションゲームのシリーズ名。

世界の人
触れ合える
空間や場

山形県内
4地域の
交流増加

若い世代の
子育て支援
No more
ワンオペ

ユニークな
居場所で
注目度UP



4-B 生活利便性アップ！霞城セントラルの大改革

参考 SNS *千葉県 南船橋駅
三井ショッピングパーク
ららテラス TOKYO-BAY

- 山形は自然豊かなところが魅力であるが、「暮らしたい街にするには」という視点で考えた際に、生活利便性を向上させる必要がある。そこで、バスや電車で山形駅に行けば事足りるようにすると「暮らしたい」と思えるのではないかと考え、霞城セントラルを大改革するというアイデアが出た。
- 霞城セントラルは立地はいいので、商業施設、医療機関、子供が遊ぶ場所、ドッグランや山形の有名なグルメを食べられる飲食店などを誘致して、こどもからお年寄りまで幅広い年齢層の生活利便性を高められる居場所にしてはどうか。
- 山形駅と霞城セントラルの連絡通路も広いので、店舗を配置するなどしてスペースの活用もできると思う。



自然豊かな山形で
「暮らしたい」と
思うのに必要なのは
生活利便性

バス、電車で山形駅に来ればOK!
霞城セントラル
大改革
ワンストップで用が全て足りる

幅広い年齢層の
生活利便性アップ

*商業施設 *医療機関 *ドッグラン
*こどもが遊ぶ場所 *山形グルメの飲食店



トークテーマ 5. こんなチャレンジができれば暮らしたい！未来の山形

5-Aグループは、若者が規模の大きなフェスを開催することにチャレンジして、山形を盛り上げ、若者のつながりをつくるというアイデア、5-Bグループは若者の県外流出の対策として、若者も住みやすい街にするチャレンジのアイデアを発表しました。

5-A フェスを通して山形の盛り上げと若者のつながりづくり

参考 SNS *Festival life
日本中の
フェス情報を集約

- 大規模なフェスを開催することがチャレンジ。小さな規模の音楽イベントは県内でも開催されているが、24時間×3日間くらいの規模の大きなイベントを開催して県内を盛り上げたい。
- 大学生を中心に運営を行い、若者のコミュニティを創出することで、県内の若者が所属するコミュニティの交流機会を増やす。会場は夏のスキー場や河川敷、廃校などを活用して実施してはどうか。
- 地元企業がスポンサーになり、山形の食材を使ったキッチンカーも出店、SNSの宣伝も山形のインフルエンサーの協力を得るなど、オール山形で実施することで山形の活性化にもチャレンジできるといい。



大規模フェス開催

*大学生を中心に運営 *スタッフは県内の有志を募る
*県内スポンサー *県内食材キッチンカー
*県内インフルエンサーによるSNS宣伝

若者コミュニティ創出

県内の少ない「大人の娯楽」を自分たちでつくる

山形県内の活性化



5-B 若者“も”住みやすい街にチャレンジ

参考 SNS *若者“も”住みやすい街にしたい！！

- 「若者“も”住みやすい街にしたい！」をチャレンジのキーワードにしたアイデアが出た。
- 県内では3世代同居が基本として考えられていて、子育てに親世帯のサポートがあることが前提になっている。近くに親世帯が無く、子育てで親世帯に頼ることのできない世帯の子育て支援を充実させて、若者の子育てに対する不安を解消することが少子化の対策にもなると思う。
- 大学生の学校外での交流を増やすためのイベントをたくさん開催し、大学生と山形の地域とのつながりを強くしていくことで、地域の活性化と若者の定住化を図るのはどうか。
- やまぎん県民ホールなどでイベントは実施されているが、何のイベントが実施されているかなどの情報発信が不足しているために参加できないことが多い。せっかく実施しているイベントなので、情報発信をしっかりと行わないともったいないと感じる。
- 就活生の職業の選択肢を増やすために企業の誘致を行うことで、山形での定住者の増加を図り、県外への流出を防ぐことにつなげるとよい。
- 住む街としての魅力を上げるために、若者については県内の税金を都市部よりも少なくするとよい。



山形での若者の定住者増のため

若者“も”
住みやすい街

老若男女が住みやすい街

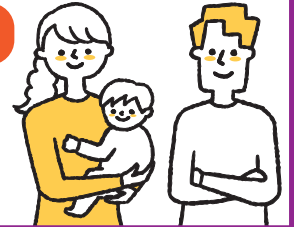
親世帯に頼ることのできない世帯への子育て支援の充実

大学生の大学外での交流を増やすためのイベントの開催増加

実施されているイベントの情報発信の充実

職業の選択肢を増やすための企業誘致

若者の税金を都市部よりも少なくする



トークテーマ 6. 教えて！みんなのライフデザイン

6-Aグループは、山形でポジティブに暮らしていくための山形の良さの見つけ方と山形の活性化につながる新しい価値を生み出すための考え方、6-Bグループはライフデザインのベースになる就職先についての情報発信と県内に必要な職種についてのアイデアを発表しました。

6-A 県外者目線で気付く山形の良さを再発見

参考 SNS *田舎ではベンツでもフェラーリでもなく軽トラが最強です

- 「山形は田舎でなにもない」と考えるのではなく、あるものに目を向けてポジティブに捉え、山形ならではの環境を活かして暮らせるといいと思う。山形にあるもの、山形の良さは、長い間山形に住んでいると気付かないこともあるため、観光客や移住者といった県外の人々の新たな視点や、山形県民が気付いていない山形の良さを再発見するきっかけになると考える。県内向けにそのような山形の良さを情報発信することで県民が山形の良さを再発見し、ライフデザインに活かして前向きに過ごすことができるようになるのではないかな。

県外の人々が感じる
「山形の良さ」

県内向けに情報発信

山形県人
「良さ」再発見

ポジティブな
ライフデザインに！



新しい価値をつくるのに必要なのは実現するための「熱量」

参考 SNS *ヤマガタエキマエバル

- 現在の山形には若者のコミュニティや異業種交流が足りないと感じる。新しい価値は県外の人から良いと思われる価値と山形の人々が感じている魅力を融合させることによって生まれるので、そのためのコミュニティや交流が必要なのではないかな。
- やまぎん県民ホール前広場で開催した『ヤマガタエキマエバル』は若者の異業種交流会であり、この交流がきっかけで新しい価値づくりが始まると考えた。それぞれの「新しい価値づくり=プロジェクト」には「熱量」をもって動いていくことが必要だと思う。異業種交流から生まれた各プロジェクトの実現が山形の活性化につながるのではないかな。これをやりたいという気持ちがあれば、お金と時間は後からついてくると思う。大切なのはそれをやるという「熱量」だと感じている。

若者のコミュニティ／異業種交流会

県外の人が良いと思う価値 × 山形の魅力

熱意
プロジェクト造成

新しい価値
山形の活性化



6-B 山形で働き、暮らすための情報発信と多様な職種

参考 SNS *山形Uターン
Iターン

- 山形での暮らし、生活スタイルを考える際には生業となる仕事、その職種が重要になる。やりたい仕事や職種が山形県内に無ければ県外に生業を求めることになり、ライフスタイルも当然のように変わってしまう。山形でのライフスタイルを描くために必要なことは何かを考えた。
- 山形の就職情報については、SNSなどのwebで、山形へのUターン、Iターンについて、いいことが書いてあるのにその他多くの情報に埋もれてしまい、必要としている人に情報が届かないことが多い。対策として、まとめサイトを作ったり、LINEなどでダイレクトに情報を届けてほしい。
- 生業になる仕事については、山形には若者がやりたいと考えるITやクリエイティブな職種が少ないため、県外に仕事を求めて流出してしまっていると感じる。若者に山形で働き、暮らすライフデザインを考えさせるには、ITやクリエイティブな職種をはじめとする多様な職種を誘致をすることが必要だと思う。



若者が山形で働き、暮らすライフデザインを描くには

Uターン・Iターンの情報発信

生業／就職先

まとめサイトの作成
LINEでのダイレクトな
情報提供

ITやクリエイティブ系をはじめ
若者が「やりたい」仕事ができる
就職先となる企業誘致



コーディネーター熊谷春香さんのYY meeting総括

コーディネーター熊谷春香さんに各グループの発表後、感想をお話いただき、YY meetingのような話し合いを、より有意義なものにするアイデアをご提案いただきました。

■各グループの発表への感想

- 1-A/SNSだけで終わらず、県主体で若者が実際に意思発表する場や県民にあった働き方をつくるという具体的な取組みの提案が良い。
- 1-B/起業を成功させて良い暮らしをしているSNSを参考に、補助金など必要なものをリストアップしているのが良い。
- 2-A/「SHIRO FES」からの着想がお見事！イベントが増えている山形にさらに内容の濃いイベントが増えそう。
- 2-B/テーマ選びから結論を出すまでの話し合いのプロセスがすごく良い。県でイベントを実施した場合をイメージしやすかった。
- 3-A/移住などについて、Instagramの活用法を細かく構想をしているのが素晴らしい。
- 3-B/山形を「知らない人向け」「知っている人向け」という2つの軸で考えたところがわかりやすく、とても良い着眼点。
- 4-A/課題をあぶり出して、解決していくためのアイデアをまとめているところが良い。
- 4-B/「駅の使い方」というテーマ設定が良い。霞城セントラルの活用というアイデアも若者ならではのおもしろい提案。
- 5-A/「フェスの開催」を学生主体とする提案はすごく良い。ぜひ実現を。芸工大もイベントやデザイン業務をして評判が良かった。
- 5-B/山形の課題を一番明確にシンプルにテーマを解決していくプロセスがおもしろい。
- 6-A/成功体験からの視点でとてもリアリティのある問題解決の提案でわかりやすかった。
- 6-B/2つのテーマを軸に課題解決の方法をたくさん話したという熱意を感じた。

■これからの山形県の取組みにYY meetingを活かしていくために

私自身、山形県から依頼されてインフルエンサーや情報発信についてのコーディネーターなどのお仕事をしているが、話を受けた時点で既に枠組みが出来てしまっていて、リアリティの無さを感じるがあった。また、「こうなったらいいよね」で終わってしまうこともあり、残念な感じがした。

今回出たようないいアイデアをリアルに反映させるには、行政での取組みについて、企画や構想の段階からYY meetingのように大学生などの若者やインフルエンサーを活用していくのが良いと思う。若者世代の行政参加が郷土愛を育むとともに、これからの山形県をどうしたいかを当事者として考えていくことにつながると思う。



トークテーマアンケート

ダブルワークやリモートワーク、若者が楽しめるイベント、娯楽施設や商業施設に興味や好みと一緒に人が集うコミュニティ…。こんな希望や願いが叶うなら、未来の山形で暮らしたい！

イベント終了後にトークテーマ1～5に関して、グループセッションの枠を無くして、参加者みんながどんな思いを持っているのかのアンケートを実施しました。

暮らしたい未来の山形について、トークテーマごとの具体例を複数回答可能な形式で答えてもらいました。回答結果から、若者たちが求める未来の山形のイメージが見えてきます。

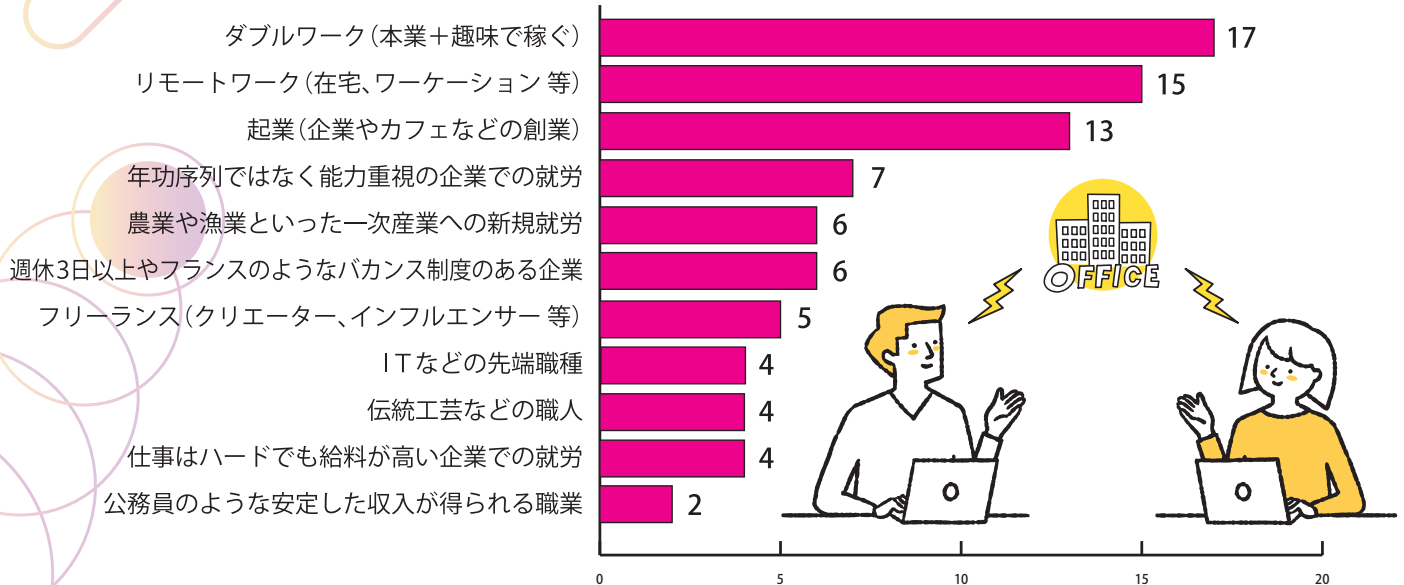
※アンケート回答者／40名

未記入、3つ未満の回答項目もあり、回答総数が不定数になっています。

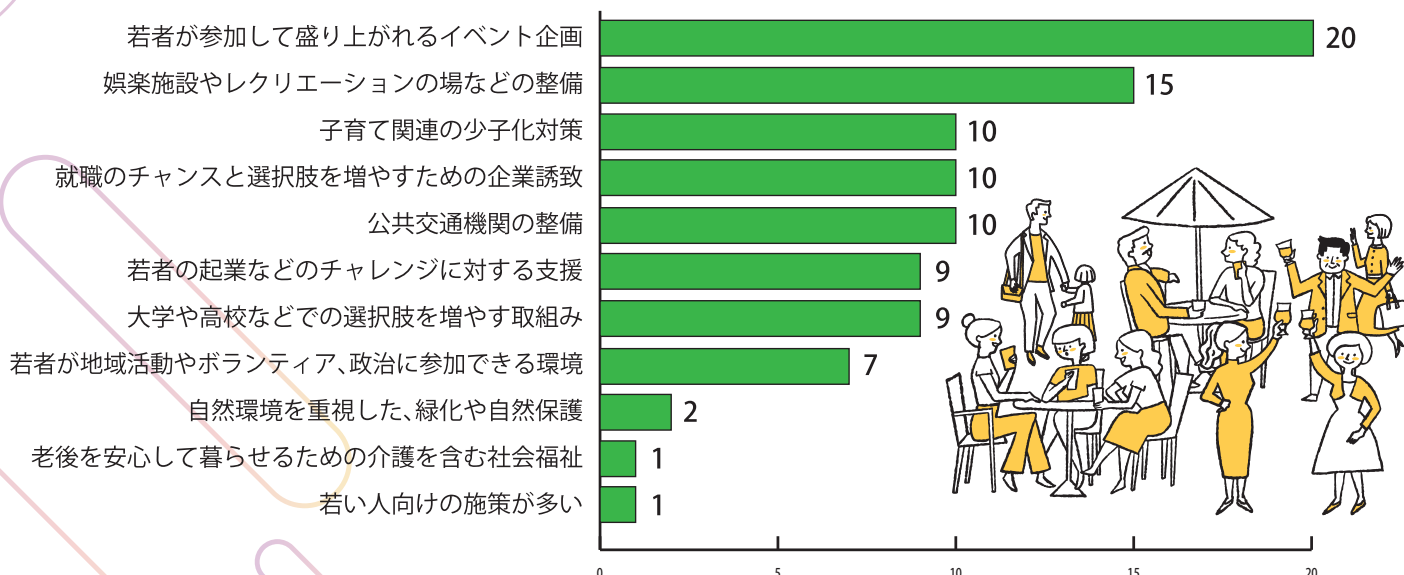


■ トークテーマについて／あてはまるものを3つまで選択してください。

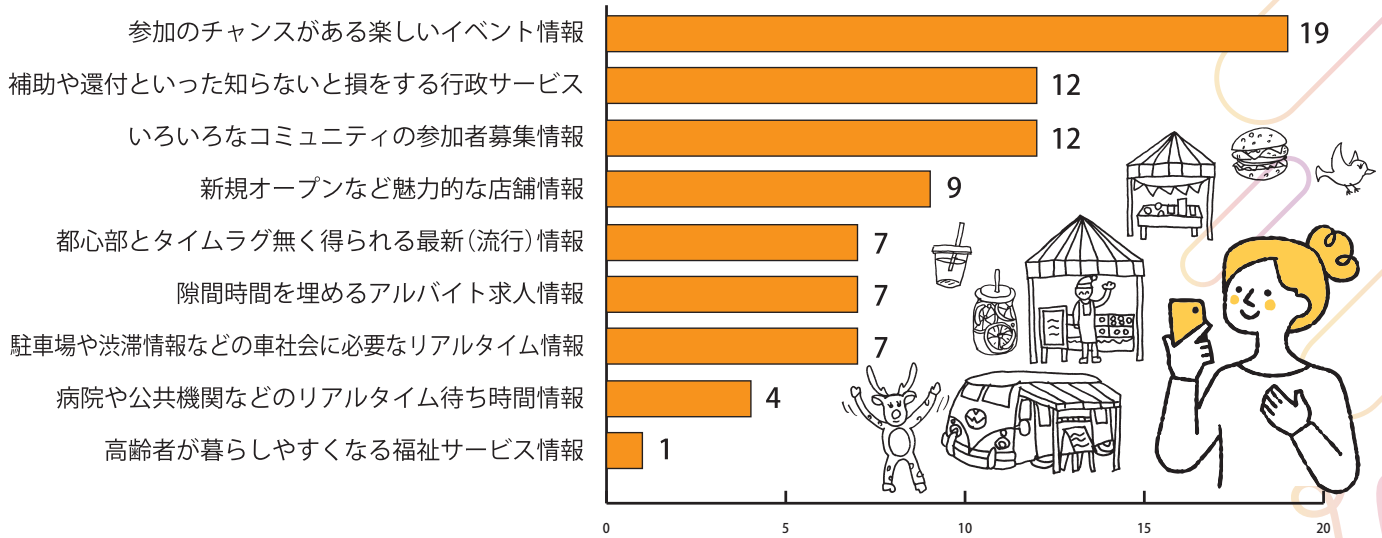
Q. どんな働き方ができたら未来の山形で暮らしたい？ 回答者 36/40



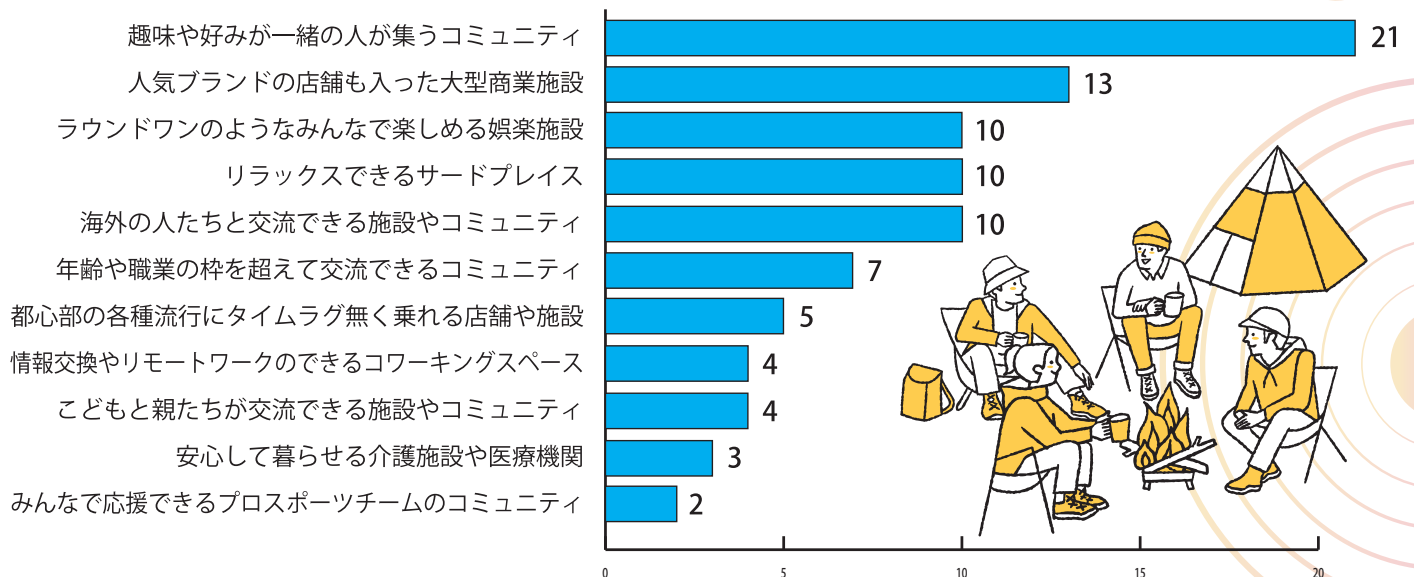
Q. どの県の取組みがあったら未来の山形で暮らしたい？ 回答者 36/40



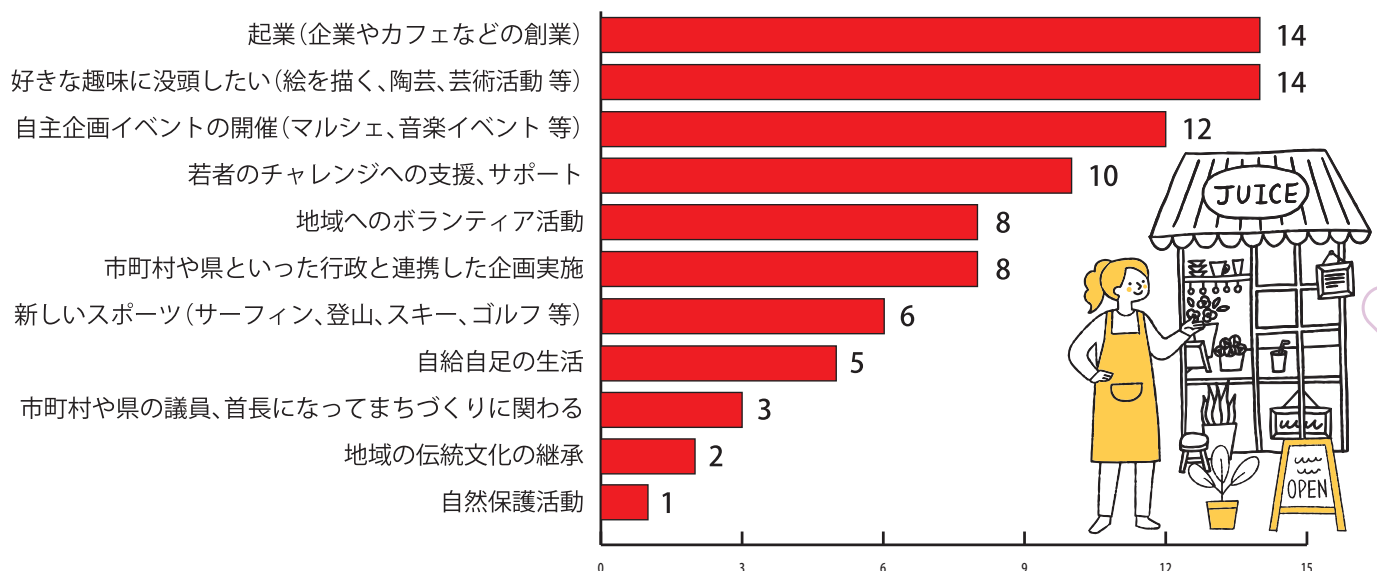
Q. どんな情報を知ることができたら未来の山形で暮らしたい？ 回答者 34/40



Q. どんな居場所があったら未来の山形で暮らしたい？ 回答者 35/40



Q. どんなチャレンジができたら未来の山形で暮らしたい？ 回答者 33/40



MeReal!



meeting



***YY meeting に参加しての感想**

同世代の方と山形の未来について話すことができ非常に有意義な時間になった。

若者の声をしっかりとまとめられたと思うので、これをしっかりと県の有力者に共有していただき、実行へつなげていただきたいです。

自分の趣味や経験の範囲外の意見・アイデアが聞けて、とても面白い発見があった。

各々が考えてきた様々なテーマについてディスカッションできて、視野を広げることができた。

自分とは異なる団体に所属している方の意見を聞くことができ知見が広がった。

同世代の人と山形の未来について考えるということが新鮮で楽しかった。

自分自身の将来についても想像することができた良い機会でした！

***教えて！みんなのライフデザイン／どこで、誰と、どんな風に暮らしていきたい？**

趣味や話の合う友人と山形でゆったり暮らしたい。

海辺or自然豊かな所で、家族+犬と遊びながら暮らしたい。

実家で将来的には子育てしながら好きなことをして暮らしたい。

街中で子育てと仕事を両立して暮らしたい。

自然がいっぱいで水がおいしいところで、家族と幸せに暮らしたい。

おいしい空気の中、友達、家族達と毎日疲れ果てるような日々を過ごしたい。

自然たくさんところで家族と自給自足しながら暮らしたい。

公共交通が整っている街で、家族と一緒にぐだぁ〜って暮らしたい。車は欲しい。

グループセッションの進行役を担当していただきました。

「若者サポーター」の皆さん

地域活動のセンパイ達が経験と知識を活かして若者の皆さんのしたいことをサポート。団体設立の方法等、様々な相談に現地で実践的なアドバイスをすることにより、若者の活動を支援。



「やまがた学生情報局」の皆さん

山形県発の「学生の、学生による、学生のためのメディア団体」。山形県内高校・大学に所属する現役学生たちが所属。運用するSNSの総フォロワーは9,000人超え。



令和6年度 若者のオンライン対話事業

